胃切除術後難治性嘔吐を大逆上気と とらえて麦門冬湯を投与した1例

吉野 鉄大^{ab} 清水 芳政^c 秋葉 哲生^d
渡辺 賢治^b

a 水戸赤十字病院内科, 茨城, 〒310-0011 水戸市三の丸3丁目12番48号
b 慶應義塾大学医学部漢方医学センター, 東京, 〒160-8582 新宿区信濃町35
c 水戸赤十字病院外科, 茨城, 〒310-0011 水戸市三の丸3丁目12番48号
d あきば伝統医学クリニック, 千葉, 〒289-1805 山武市蓮沼ニ-2086番地

A Case of Intractable Vomiting After Distal Gastrectomy Treated with Bakumondoto

Tetsuhiro YOSHINO^{ab} Yoshimasa SHIMIZU^c Tetsuo AKIBA^d
Kenji WATANABE^b

a Department of Internal Medicine, Mito Red Cross Hospital, 3-12-48 Sannomaru, Mito-City, Ibaraki-pre 310-0011, Japan
b Center for Kampo Medicine, Keio University School of Medicine, 35 Shinano-machi, Shinjuku Tokyo, Japan
c Department of Surgery, Mito Red Cross Hospital, 3-12-48 Sannomaru, Mito-City, Ibaraki-pre 310-0011, Japan
d Akiba Traditional Medicine Clinic, 2-2086 Hasunuma, Sanmu-City, Chiba-pre 289-1805, Japan

Abstract

There have been few reports on an antiemetic effect of bakumondoto. An 84 year old man was referred to the department of internal medicine for Kampo treatment of intractable vomiting since having a gastrectomy 6 years previously. He had experienced persistent regurgitation of gastric fluids at dawn and antiemetic and antacid drugs were of little help. He had had a gastrojejunostomy 4 years previously for an intestinal obstruction. After the gastrojejunostomy, vomiting persisted despite of the administration of antacids, rikkunshito or daikenchuto. Physical examination revealed only slight edema of the legs. An upper gastrointestinal series, blood tests and head CT scan revealed no specific vomiting cause. After referral to our department, we tried hangeshashinto, and shinbuto in vain. Then we prescribed bakumondoto. He reported that the frequency of his vomiting reduced in 3 weeks, and that the vomiting disappeared in 2 more weeks. Thus we consider that not only cough but also vomiting can be treated with bakumondoto.

Key words : bakumondoto, gastrectomy, intractable vomiting

要旨

麦門冬湯を、咳嗽ではなく嘔吐に応用した報告は少ない。症例は84歳男性。78歳時に重複早期胃癌 stage I A に対して幽門側胃切除術、ビルロート I 法再建を施行された。術後に逆流感と嘔吐が持続し、制酸薬や制吐薬で改善しなかった。通過障害が疑われて80歳時に残胃空腸吻合術を施行されたが、その後も症状が持続した。再び制酸薬や六君子湯、大建中湯が試みられたが効果がなく、漢方治療目的で当外来を受診した。嘔吐は明け方に胃酸だけを吐出していた。腹部に明らかな理学所見上の異常を認めず、採血や各種画像検査でも異常を認めなかった。半夏瀉心湯、真武湯の効果は限定的だった。初診から2ヵ月後、嘔吐を大逆上気ととらえて麦門冬湯に転方したところ3週間後には嘔吐の回数が減少し、その2週間後には嘔吐がほぼ消失した。『金匱要略』の大逆上気を嘔吐と捉えることで麦門冬湯の応用範囲がひろがるのではないかと考えられた。

キーワード：麦門冬湯、胃切除術、難治性嘔吐

緒言

麦門冬湯は『金匱要略』に「大逆上気、咽喉不利、止逆下気者、麦門冬湯主之。」と記載される処方である¹⁾。本方を咳嗽ではなく嘔吐に応用した報告は

少ないが、今回我々は胃切除術後の難治性嘔吐に麦門冬湯を投与した1例を経験したので報告する。

症例：84歳 男性

主 訴：嘔吐

既往歴：26歳 急性虫垂炎術後，65歳 冠攣縮性狭心症，70歳 早期胃癌 内視鏡的粘膜切除術後，73歳 鼠径ヘルニア術後，75歳 十二指腸潰瘍

社会生活歴：喫煙経験なし，機会飲酒

家族歴：特記事項なし

現病歴：78歳時に重複早期胃癌 stage I A，胆石症に対して腹腔鏡補助下幽門側胃切除術，ビルロートI法再建，胆嚢摘出術を施行された。術翌日に縫合不全を認めたため，開腹下に再縫合，洗浄ドレナージを試行された。80歳時に嘔気，胸焼けが出現，増悪し，制酸薬や制吐薬で改善せず，食事ができないほど嘔吐を繰り返すようになった。吻合部狭窄は認めないが残胃からの排泄遅延を認めたため，開腹下に残胃空腸吻合術を施行されたが，その後も症状が持続した。制酸薬，六君子湯エキス7.5 g/日，大建中湯エキス15 g/日が試みられたが効果がなく，84歳時に漢方治療のために内科を受診した。

現 症：嘔吐は明け方に少量の胃酸だけを吐出することが多かった。また，食事で改善するが，頭を上げて寝ても改善しなかった。他に，夜横になると1時間ほどで胸焼けが出現する，普段から口が渴いている，心窩部と足の冷えがあるため冬は着込まないとつらいとの訴えもあった。声には覇気がない，意識清明，血圧113/91 mmHg，体温36.7℃，身長159 cm，体重53 kg，BMI 21.0，眼瞼結膜に貧血あり，腹部診察所見で腹部膨満，グル音正常，軟，圧痛なし，両側下腿浮腫あり，他には身体所見に特記すべき異常を認めなかった。

漢方医学的所見：舌候：紅，無苔，やや乾燥，皸裂，舌下静脈怒張，脈候：沈，腹候：腹力やや弱，上腹部正中に手術痕あり，心下痞鞭，両側臍傍に瘀血の抵抗圧痛を認めた。

経 過：嘔吐と心下痞鞭を目標に半夏瀉心湯エキス7.5 g/日を投与した。一時的に嘔吐が減り心下痞鞭も消失したが，嘔吐が再発した。次に，心窩部の冷えを目標に真武湯エキス7.5 g/日に転方したところ，飲みやすく，冷えは改善したが嘔吐は改善しなかった。そこで，嘔吐を大逆上気ととらえて麦門冬湯エキス9.0 g/日に転方したところ非常に飲みやすく，3週間後には嘔吐の回数が減少し，その2週間後には嘔吐がほぼ消失した。

考察

胸焼けや嘔吐などの症状は胃切除後症候群として

知られており，急性に発症した場合には腸重積²⁾³⁾や様々な原因による腸閉塞^{4)~6)}，空腸横行結腸瘻⁷⁾などを検討する必要があるが，本症例のように原因がはっきりせず難治化する場合もある。その際には，漢方治療の有効性も報告されている⁸⁾⁹⁾。麦門冬湯については『勿誤藥室方函口訣』で浅田宗伯が「金匱に大逆上気と計ありては漫然なれども，けだし肺痿にても頓嗽にても勞嗽にても妊娠咳逆にても，大逆上気の意味ある処へ使えば大いに効ある故，この4字簡古にて深旨ありと見ゆ。」と指摘する¹⁰⁾ように，本邦では大逆上気を目標として咳嗽に使用される機会が多い。麦門冬湯について，各社のエキス製剤は，効能・効果として，いずれも咳や気管支疾患を挙げているに過ぎない。しかしながら本症例は嘔吐を大逆上気ととらえることで麦門冬湯を処方し，効果を得ることができた。金匱要略において「欬逆上気」という指示は，麦門冬湯が収載される肺痿肺癰欬嗽上気病脉證治¹¹⁾の皂莢丸条文や葶藶大棗瀉肺湯条文などに含まれているが，「大逆上気」という指示は麦門冬湯条文以外に見られない。これは「大逆上気」の「大逆」が「欬逆」とは異なること，つまり咳のみを意味する言葉ではないことを示唆している。

また，麦門冬湯の中医学的な適応は，咳に対する処方としての肺陰虚だけでなく，胃陰虚も含まれるとされている¹²⁾。この場合の陰虚は，陰液（津液や血）の虚証（不足）を指し，胃陰虚とは口渴・咽の乾燥感・乾嘔・吃逆・噯気・食欲不振・便がかたいなどの症候を指す。また，陰虚では相対的に陽の過剰となるため手足のほてりや盗汗を伴うことが多いとされる。さて，麦門冬湯の適応は，胃陰虚の症候に加えて，元気がない・疲れやすい・息ぎれなどの気虚の症候を伴い，舌質は紅で乾燥，舌苔は少いあるいは地図状，脈は細数である患者であるとされている¹²⁾。本症例は高齢男性で嘔吐が空えづきに近く，普段は口が渴いているといった乾燥症状があり，舌候も合わせて陰虚と考えられる。手足のほてりはみられず，むしろ心窩部と手足に冷えを自覚していたが，嘔吐が胃陰虚による胃気上逆の症状であったと考えれば麦門冬湯が有効であったことの説明ができる。一般に本症例のような嘔吐に対しては，本例で試みられた半夏瀉心湯¹³⁾¹⁴⁾の他に，『傷寒論』太陽病・発汗後病に「傷寒，汗出でて解するの後，胃中和せず，心下痞鞭，乾噦食臭，脇下水気あり，腹中雷

鳴，下利する者は，生姜瀉心湯之を主る。」と記載される生姜瀉心湯¹⁵⁾や，心窩部の冷えなども含め安中散¹⁶⁾も検討したが，採用薬の関係で選択できなかった。さらに病悩期間が長期に渡り消耗状態にあると考えられ，過去に有効性の報告がある補中益気湯¹⁷⁾や六君子湯⁸⁾⁹⁾のような補剤・気剤や，小半夏加茯苓湯¹⁸⁾¹⁹⁾，半夏厚朴湯²⁰⁾²¹⁾，茯苓飲²²⁾などが鑑別として考えられた。また，嘔吐を気逆と捉えることで，本症例に対しては桂枝加桂湯や苓桂甘藷湯，奔豚湯などの処方などが選択肢になる症例の存在も示唆される。

以上より，本症例のような嘔吐に対して麦門冬湯は効果があると考えられるが，類似症例の過去の報告は極めて限られている。

麦門冬湯を咳のない嘔吐に応用した本邦からの報告は，山田業精の『井見集附録』しか見当たらない²³⁾。30歳前後の婦人の嘔吐で，小半夏加茯苓鮮地黄投与後に再発したものを麦門冬湯加鮮地黄で全治させた治験例が報告されている。ここで山田は，咳に限らない麦門冬湯の効能が「止逆下気」の一句に尽くされていると指摘し，投与目標としての「大逆上気」を強調するとともに，麦門冬湯が咳以外の気逆を下す効果を示唆している。なお，ここで繰り返し使用されている鮮地黄は，今で言うところの生地黄もしくは乾地黄であると考えられるが，患者が冷水を好み，その飲用で症状が改善したところから清熱涼血作用を期待して加味されたものと考えられる。麦門冬湯を胃陰虚に使用した現代の報告としては，胸焼けや食欲不振の3例に使用した畑のもの²⁴⁾があるが，ここで報告されているいずれの症例も嘔吐は伴っていない。ただし，胸焼けは上述の胃気上逆の症状と解釈できる。

結論

胃切除術後難治性嘔吐に麦門冬湯が有効と考えられた1例を経験した。嘔吐を大逆上気の症候の一つととらえることで，麦門冬湯を応用できる可能性が示唆された。

附記 本報告の概要は2013年2月24日，第21回日本東洋医学会関東甲信越支部埼玉県部会で発表した。

使用した漢方薬は全て株式会社ツムラのエキス剤を用いた。

本論文に関連し，開示すべき利益相反（COI）状態にある企業・組織や団体

吉野鉄大，渡辺賢治：奨学（奨励）寄付などの総額（株式会社ツムラ）

文献

- 1) 日本東洋医学会専門医制度委員会．専門医のための漢方処方の原典と条文の手引き．日本東洋医学会，東京 2013. 55.
- 2) 奥村権太，金子英彰，前田壽哉，他．胃切術後16年を経て肛側腸管が先進部となりY吻合部へ重積を起した成人腸重積の1例．日消外会誌 1999；32：2273-2277.
- 3) 庭野元，岡本竜，藤木真，他．胃切後35年目に発症した胃切後逆行性空腸重積の1例．岡山医学会雑誌 2004；116：135-139.
- 4) 森田恒彦，秦温信，松久忠史，他．幽門保存胃切除術後に発生した胃石による腸閉塞の1例．日消外会誌 2000；33：1799-1801.
- 5) 内山清，清水義，山口明，他．胃切除術後に間歇的な腹痛と嘔吐で発症した小腸軸捻転症の1例．京都府立医科大学雑誌 2003；112：795-799.
- 6) 大辻英吾，菊岡範一，辻本洋行．胃切除後に発症したシラタキコンニャクによる食餌性イレウスの1例．J Jpn Surg Assoc 1993；54：991-994.
- 7) 小切匡史，徳原克治，伊東大輔，他．難治性の嘔吐，下痢で発症した胃切除術後の空腸横行結腸瘻の1例．日消外会誌 2001；34：632-636.
- 8) 小尾龍右，鉄村進，平崎能郎，他．早期胃癌に対する幽門側胃切除後の食欲不振に香蘇散合六君子湯が奏効した一例．日東医誌 2005；56：577-583.
- 9) 合地明，広瀬周平，佐藤克明．胃切除術後の消化器症状に対する半夏瀉心湯，六君子湯の効果．日消外会誌 1995；28：961-965.
- 10) 大塚敬節，矢数道明編．近世漢方医学書集成96浅田宗伯（二）『勿誤藥室方函口訣』巻之上．名著出版，東京 1982. 26.
- 11) 日本漢方協会学術部編．傷寒雜病論．東洋学術出版社，千葉 2000. 286-292.
- 12) 神戸中医学研究会編．中医処方解説．医歯薬出版，東京 1982. 50-51.
- 13) 大関潤一，奈良範子，山田宏之．半夏瀉心湯エキスの服用により抗不安薬をやめられた機能的胃腸症（FD）と考えられた一例．漢方の臨床 2006；53：1337-1343.
- 14) 廣田薫，近江恭子，小野顕人，他．難治性嘔吐症に対し漢方薬が奏功した一例．日東医誌 2012；63：242.
- 15) 日本東洋医学会専門医制度委員会．専門医のための漢方処方の原典と条文の手引き．日本東洋医学会，東京 2013. 34.
- 16) 関矢信康，地野充時，大野賢二，他．臍疝痛を主訴とする起立性調節障害に対する安中散の応用．漢方の臨床 2005；52：1313-1317.
- 17) 伏木弘，吉本英生，生駒友美，他．制癌剤の副作用軽

- 減に対する補中益気湯の試み. 産婦人科漢方研究のあゆみ 2004; 05: 82-84.
- 18) 野崎和也, 南澤潔, 引網弘彰, 他. 栄養サポートチーム (NST) における和漢診療科の果たす役割について 重症妊娠悪阻を通じて. 日東医誌 2007; 58: 252.
- 19) 水上勝義. 小半夏加茯苓湯が有効だった心因性嘔吐の6例. 漢方医学 2013; 37: 108-111.
- 20) 田中清. 半夏厚朴湯が有効であった特発性嘔吐の一幼児例. 日東医誌 1991; 42: 287-288.
- 21) 水原浩, 萩庭一元, 小菅孝明, 他. 半夏厚朴湯が奏効した妊娠悪阻の2例. 日東医誌 2007; 58: 253.
- 22) 笠原裕司, 関矢信康, 地野充時, 他. 腎癌術後の腹部症状に漢方治療が奏効した一例. 日東医誌 2009; 60: 385-389.
- 23) 矢数道明, 大塚恭男編. 近世漢方治験選集13山田業精『井見集附録』. 名著出版, 東京 1986. 108-109.
- 24) 畑靖子. 私の使ってみたかった薬方 胃陰虚に対するツムラ麦門冬湯の使用例について. 漢方の臨床 1999; 46: 319-324.